

登壇者略歴

Dr. Jörg Täubel

Founder & CEO

Richmond Pharmacology, UK



ヨルク・トーベル医師 (MD FFPM FESC) は、リッチモンド・ファーマコロジーのCEO兼共同創設者であり、臨床薬理学を専門とする医師です。

CRISPR-Cas9による初のin vivo遺伝子編集治療「NTLA-2001」の国際First-in-Human試験で初回投与を実施するなど、最先端の遺伝子治療研究を牽引しています。これまでに500件以上の第I~III相試験に主任研究者として携わり、心不全や希少疾患領域の臨床研究に豊富な実績があります。

Dr. Jacqueline Barry

Chief Clinical Officer

Cell and Gene Therapy Catapult, UK



ジャクリン・バリー博士は、再生医療等先端治療分野において20年以上の経験を有するシニアビジネスリーダーです。

英国CGTカタパルトのチーフ・クリニカル・オフィサーとして、規制戦略・品質管理・GMP・商業化支援を含む多面的な専門知識を活かし、先端治療の実用化と患者アクセスの加速に尽力しています。英国国内の先端治療センターのネットワークも主導し、革新的治療の普及に向けたエコシステム構築を推進しています。

Dr. Paul Goldsmith

Non-Executive Director

MHRA, UK



ポール・ゴールドスミス医師は、製薬およびデジタル治療の分野でライフサイエンス企業を創業・成長させた実績を持つ医師・戦略家です。進化生物学の知見を現代社会の課題に応用することを専門とし、NHSや政策シンクタンクでも活躍しています。

現在は Closed Loop Medicine社の社長、MDUおよびMDU Investmentsの取締役を務めています。

Dr. Lisa Campbell

Director of Regulatory Strategy

Richmond Pharmacology, UK



リサ・キャンベル医師は、希少疾患や遺伝子治療、First-in-Human試験に精通したメディカルアドバイザーであり、英国およびEUにおける規制要件・臨床開発の専門家です。

MHRA (英国医薬品規制庁) でシニアメディカルアセッサーとして9年間勤務し、COVID-19対応や革新的試験デザイン(プラットフォーム試験、分散型試験)にも尽力しました。産婦人科医としての臨床経験と糖尿病妊娠に関する博士号も有し、患者参画や多様性を重視した臨床試験推進にも取り組んでいます。

Marie-Claire Joyce

Trade Counsellor

British Embassy Tokyo



マリー・クレア・ジョイス氏は、2020年より駐日英国大使館にて貿易参事官を務めており、長年にわたり英国外交官として日本、インドネシア、チュニジアなどで幅広い分野に従事してきました。

貿易・通商、政治、領事業務、危機管理など多岐にわたる経験を有し、在日英国大使館には1999年以降、複数回にわたって赴任しています。外交アカデミーの部長やグレンフェル火災対応チーム長などの要職も歴任しており、日本との関係深化に長年貢献してきた人物です。

richmond